



能登やさしいこめづくり情報

令和6年8月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

中生収穫編

「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

1 生育概況と当面の管理

- 5月上旬に移植したコシヒカリでは、刈取り適期は9月3日～8日頃(山間地+3日)の予想となっています(8/21時点)。
- 今後の天候や生育状態および土壌の水分状況によって、刈取適期が前後しますので、各自では場の『籾黄化率』や『籾水分』(下記参照)を必ず確認した上で、適期収穫に努めてください。ただし、籾の水分量が高い場合、胴割粒の発生を防ぐために急激な乾燥や高温乾燥を避けましょう。
- 5月上旬に移植したコシヒカリでは、出穂後日平均気温が27度以上の日が続いた高温登熟年となっています。このような年は乳白粒や胴割粒の発生が多くなるため、当面の管理としては、刈取り直前まで適正な水管理(①乾かさない! ②ずっと溜めない! ③早期落水しない!)を継続し、登熟の向上に努めましょう。

2 刈取りまでの水管理

- 登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。間断通水を刈取り直前まで継続しましょう。

【間断通水の徹底】 **【ポイント 刈取り直前まで適正な水管理を継続しましょう!】**

- ポイント① 乾かさない!** ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、土壌の飽水状態を保ちましょう。
 <注意> 日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ夕方に通水しましょう。
- ポイント② ずっと溜めない!** ⇒ 気温が高い日中の湛水状態は根の機能を低下させるため、避けましょう。
- ポイント③ 早期落水しない!** ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水をしましょう。

※台風が発生した場合は…台風の接近によりフェーン現象(熱風や高温)が発生する場合は、入水し一時的に湛水状態を保ち、稲体の急激な乾燥を防ぐようにしましょう。フェーン現象が治まったら、湛水状態をやめ、排水しましょう。

3 刈取り適期の目安

【ポイント 籾黄化率や籾水分を確認し、刈取遅れはしない!】

- 高温登熟年は、籾の黄化が早くなるため刈取り適期が短く、刈り遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生しやすくなります。

【高温登熟年の刈取り目安】

- 刈取り適期の籾水分は25～20%で、20%を下回ってから収穫すると胴割粒が発生しやすくなります。
 [参考] ライスタ(「籾」モード)の場合、籾水分30%以下で測定可能となり、1日あたり0.5%程度減少します。
- 籾黄化率80%から収穫を開始し、刈り遅れないよう黄化率85%までに収穫を終えましょう。
 [参考] 籾黄化率とは……1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。
- 高温登熟年における中生の刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で980～1030℃
 [参考] 登熟積算温度とは…出穂期以降の日平均気温の積算で算出できます。

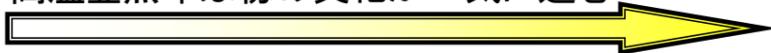


【注意!!】カメムシ防除剤を散布した場合は、剤ごとに規定の散布日から収穫前日数を確認、厳守してください。

【高温登熟年:籾黄化率や籾水分による刈取り適期判断の目安】

籾黄化率	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	16～17日後	13～14日後	10～11日後	7～8日後	4～5日後	1～2日後	適期	収穫終了
籾水分	(36.0%)	(33.0%)	(30.5%)	28.0%	26.5%	25.0%	23.5%	20.0%

高温登熟年は籾の黄化が一気に進む



収穫期間



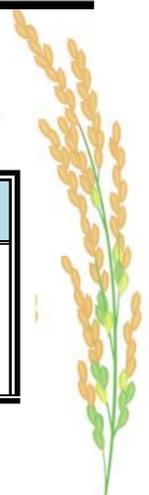
【管内中生品種の刈取り適期の目安】

品 種	移植時期	出穂期	刈取り適期	(前年の刈取り時期)
コシヒカリ	5月上旬	7月24日～ 7月29日頃	9月3日～8日頃 【山間地+3日】 (籾黄化率 80～85%)	9月2日～6日頃 【山間地+3日】 (籾黄化率 80～85%)

刈取り適期は、移植時期や出穂期、生育条件、天候等によって前後します。

上記の刈取り時期は目安とし、『籾黄化率』や『籾水分』を確認した上で、適期収穫に努めてください。

籾黄化率80%の
穂のイメージ



4 刈取り作業～調製作業の注意点

作業のポイント

収穫

(1) 刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

- ・次年度の発生予防のため、クサネムは畦畔に放置せず、ほ場外に廃棄してください。
- ・クサネムの種子は、ライスグレーダーで取り除けないため、**異物混入で落等**の原因となります。



クサネム種子
(黒い粒:左)

(2) 早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

- ・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒、未熟粒、着色粒が発生しやすくなります。

(3) 刈取った籾は、速やかに乾燥機に張り込みましょう。

- ・刈取りから**4時間以内に乾燥機へ張込み、通風**しておくことで、ヤケ米(菌の侵入で着色した米)の発生を防止することができます。
- ・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、**降雨直後などは無理に収穫を行わない**ようにしましょう。

乾燥

(1) 急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

- ・乾燥中の籾の温度は、35～40℃以下で、乾減率0.8～1.0%/時程度とします。 → **胴割粒の発生防止**

(2) 籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。(乾燥機の水分計を過信しない)

- ・**籾水分は、14.5～15.0%**になるように仕上げましょう。
- ・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。
- ・**適期に収穫しても籾水分にムラがある場合は、『2段乾燥法』**を用いましょう。

[参考] 2段乾燥法とは……
籾水分を一旦、18%程度で乾燥機を止め、5～8時間おいて
調湿した後に、14.5～15.0%に仕上げ乾燥を行う方法のことです。

【乾燥機の停止水分判定表】

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.5～15.1%	乾く(下がる)
6～10粒	15.0～14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	もどる(上がる)

- ・青米粒の混入割合によって、乾燥機を止める時の水分や停止後の水分変化が異なるため、注意しましょう(右の表を参照)。

調製

(1) 事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

- ・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に**籾水分(14.5～15.0%)**を確認しましょう。
- ・作業開始前だけでなく、**作業中も籾摺りの程度をこまめに確認**しましょう。 → **もみ混入、肌ずれ粒発生防止**
- ・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施してください。

(2) ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

- ・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。
- ・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換してください。

【着色粒(斑点米、褐色米など)による落等の目安】

- 1等 1,000粒中 1粒まで
- 2等 1,000粒中 3粒まで
- 3等 1,000粒中 7粒まで
- 規格外 1,000粒中 8粒以上混入



着色粒は白いカルトンで確認

【もみ混入による落等の目安】

- 1等 1,000粒中 4粒まで
- 2等 1,000粒中 8粒まで
- 3等 1,000粒中 17粒まで
- 規格外 1,000粒中 18粒以上混入



もみ混入は黒いカルトンで確認

(3) ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

- ・LL網(1.90mm)を使用し、調製は適正流量で整粒歩合の向上を図りましょう。

<1.90mm網の特徴>

- ・未熟粒(青未熟・白未熟)を除去できるため、品質向上につながります。



1.9mm以下の玄米品質は非常に低い

【適期刈取、適正な乾燥調製作業の徹底!!】

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、コシヒカリの刈取り作業は籾黄化率80%(籾水分25%以下)から開始!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈取った籾は速やかに乾燥機に!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生防止!!!

※ 稲わらやもみ殻等の有機物は環境に配慮して焼却せず、水田に全量すき込み、次年産に向けた土づくりに生かしましょう!
ちなみに、10aの水田から産出されるもみ殻120kg程度には、**ケイカル100kg相当のケイ酸**を含んでいます。